

檀原市立図書館だより

平成20年12月10日発行
第14号

檀の樹

特集:

モンゴメリーとマ
クラウド

小学生でも楽し
める英語絵本

目次:

特集1

2、3

特集2

4、5

図書館員の本棚

6

お知らせ

7

もうすぐクリスマス

8



特特

ふたつの島のふたりの作家 モンゴメリーとマクラウド

プリンス・エドワード島とケープ・ブレトン島——。カナダ北東に位置するふたつの島は、天候に恵まれれば、互いの姿を目視することができます。北緯45度付近に位置する島々の気候は、時に過酷です。しかし、物語の舞台となる時代にまで遡らなくても、今も豊かで美しい自然に恵まれています。そしてなによりも特徴的なのは、古くから、大西洋を隔てたハイランド(スコットランド北部)からの移民によって開拓されてきた土地だということです。アンの髪の毛が赤いことも、周囲からは風変わりと思われかねない彼女の特徴的な気質や言動も、あるいは、「彼方なる歌に耳を澄ませよ」や「島」で描かれた炭鉱夫や漁師たちが、ヨーロッパの古層に源を発するゲール語とケルトの伝統に深い愛着を抱いていることも、そこに繋がってゆくのでしょう。

作品に描き尽くされているひとびとの暮らしや風景、そして筆致の向こうにかいま見える作者自身を理解することで、私たちは、より深く読み終えることができるのではないのでしょうか。

作者紹介

ルーシー・モード・モンゴメリー 1874年～1942年。プリンス・エドワード島生まれ。幼児期に母と死別し、母方の祖父母に育てられた。教師や新聞記者を経て、1908年「赤毛のアン」を出版。今年はその100周年に当たる。他の著作に「アンの青春」「果樹園のセレナーデ」「ストーリー・ガール」など。

作品紹介 「赤毛のアン」 集英社文庫 その他多数

「赤毛のアン」の主人公アン・シャーリーは、11歳の少女です。幼児期に両親は病没し、引き取り手のなかったアンは、ものごころが付く頃から、子守りをして自らを養わなければなりません。寄り添わず、孤児院に身を寄せていたアンは男の子と間違われ、農作業の働き手としてマリラとマッシュウに引き取られるところから物語は始まります。

なにしろ今から100年も以前に成立した物語です。時代背景や社会情勢は、現代とはあまりにも違い過ぎます。ただ、それらのことを差し引いたとしても、アンの身の上はあまりに頼りなく、過酷過ぎるような気もしますが、当時では決してめずらしいことではなかったのでしょう。モンゴメリーと同様に、スコットランド系移民出身という設定のアンは、様々な困難を克服してゆかなければなりません。

孤児ではあっても、誇り高く、自分を侮る相手には果敢に立ち向かう激しさや頑なさ、空想や演劇を好む性向、豊かな感情の起伏など、そのどれもがアンというひとりの主人公の強烈な個性であると同時に、ある種のなつかしい典型として、モンゴメリーは愛情を持って描いたのではないのでしょうか。

周囲のひとびとに助けられ、様々な困難や悲しみを克服して、プリンス・エドワード島の豊かな風景の中で、アンは少女から美しく聡明な娘へと変貌していきます。本作品は「シーク アンド ファインド」あるいは「ビルドゥングス ロマン」の物語として、少年少女向けの読書案内の定番となっています。しかし一方では、誰もが隣人の善意を素朴に信じられた時代、多くのひとびとが敬虔で慎み深く生きていた時代への郷愁の物語として、読むこともできるのではないのでしょうか。(児童班)

No
Image

ポプラ社

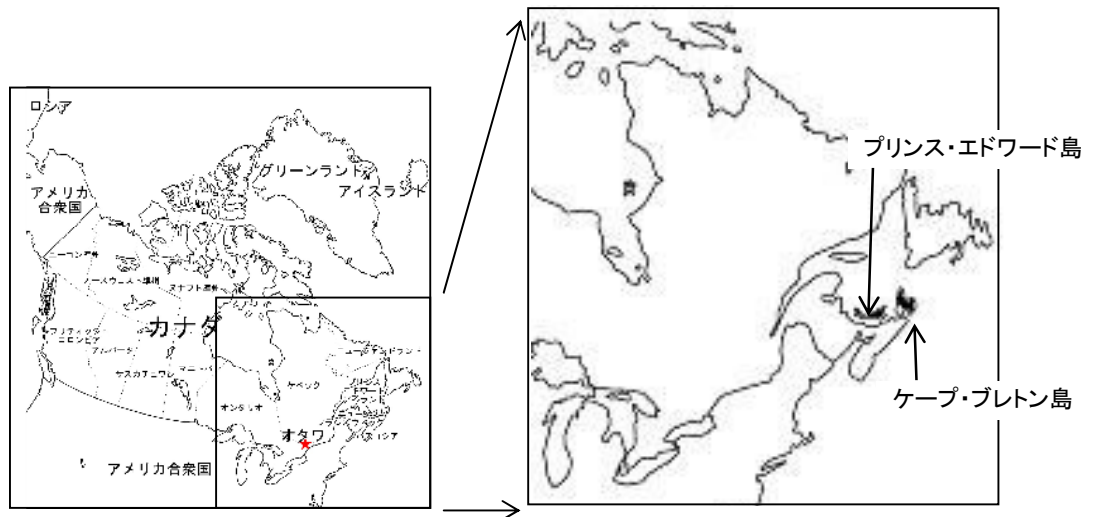
No
Image

徳間書店 テレビアニメのダイジェスト版で、読みやすく工夫されています。

No
Image

サンリオ 「世界でいちばん美しい島」 絵と写真による紀行図書です。

* 「赤毛のアン」“生誕100年”特集として、モンゴメリーとマクラウドの関連図書を1F季節絵本コーナー隣で展示しています。(年末まで)



作者紹介

アリステア・マクラウド 1936年、カナダ・サスカチエアン州生まれ。ケープ・ブレトン島で育つ。ウインザー大学で英文学の教鞭を執りながら、自らの生い立ち、炭坑や漁村で働いた経験を基にして執筆を続けてきた。寡作ではあるが短編の名手として著名。国際IMPACダブリン文学賞、カナダ出版協会賞、ラナン文学賞などを受賞多数。

作品紹介 「島」 (原題 Island) 「冬の犬」所収

老いた彼女は、ストーブをかき回していた。薪は、古い柵から引っこ抜いてきたものや、海岸から引きずってきたものも混じていた。折れ曲がった古釘が、木の芯にまで食い込んでいるのもあった。火が燃え盛って温度が上がると、釘は真っ赤に輝く。まわりの木が焼き尽くされるまで、釘はすさまじい高熱のなかで輝きつづけた……。

雨の日には、窓の外は雲や海霧で閉ざされ、海峡を隔てた本島の町の灯りも滲んでしまう。小屋の中で、今では最後の島民となってしまったアグネスが、窓ガラスを滴り落ちる雨を見つめている。彼女は、支島に駐在するただひとりの老いた灯台守だった。

古い時代から、島では、何人ものひとびとが亡くなってきた。漂着して、せっかく命を取り留めても、無人の離島には医療や食糧もなく、結局は飢えと寒さで命を失った。灯台建設と人員の常駐は、帆船と手漕ぎの時代のそうした悲劇への、ただひとつの対処法だった。彼女は島で生まれた最初の子供だった。

アグネスが娘に成長したある夏、島にひとりの青年が出稼ぎにやって来た。ロブスター漁でめずらしく賑う島でふたりは出会い、やがて娘は身ごもる。結婚の約束を残して、青年は森林伐採のため、次の仕事場へ旅立つ。

淡々とした筆致が、その後の何十年にもわたる彼女の孤絶した人生を描き出してゆく。静謐ではあるが少しの悲慘さも感じられない、清潔感のある作品だ。マクラウドの明晰な文体が、自然の峻厳な美しさに触れるたびに、余剰なものをすべて洗い流してしまうからだろう。(島)は、物語の舞台であるとともに、主人公アグネスの心象風景でもある。

物語の最終盤、アグネスを島に残して去った青年が、再び彼女の前に現れる。時が静止してしまったような、忘れがたい深い余韻が残る。(へ)

No
Image

彼方なる歌に耳を澄ませよ
新潮社

No
Image

冬の犬
新潮社

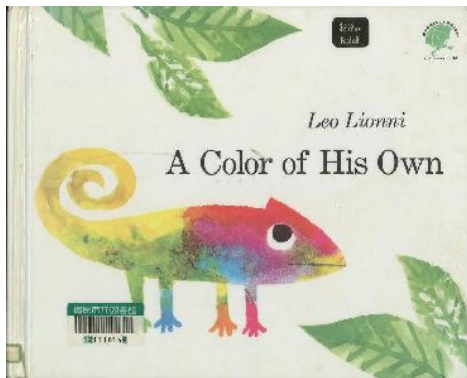
No
Image

灰色の輝ける贈り物
新潮社

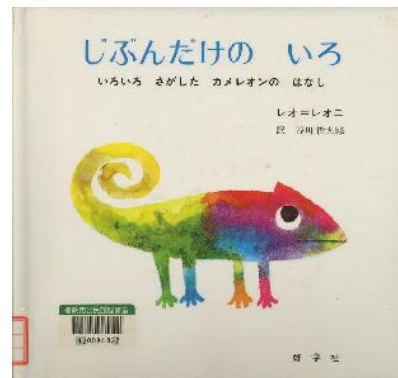
特特

小学生でも楽しめる英語版絵本

「外国語を通して、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」をめざして、市内の小学校では様々な取組が始められています。年長者や保護者の手助けを得ることで、小学生の皆さんでも楽しめる当館所蔵絵本をご紹介します。(児童班)



Leo Lionni, New York knopf



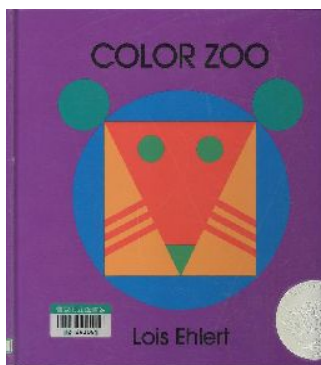
レオ・レオニ作 好学社

「A Color of His Own」(左) とその邦訳 「じぶんだけのいろ」(右)

① Parrots are green ② goldfish are red ③ pigs are pink. All animals have a color of their own ……

「オウムはみどり」「金魚は赤」「ブタはピンク」……、というように、同じような表現が繰り返されます。くり返しと視覚の相乗効果によって、おのずから英語に親しみがわくのではないのでしょうか。

その後、④ except for chameleons と話は続きます。カメレオンはどうだというのでしょうか……。

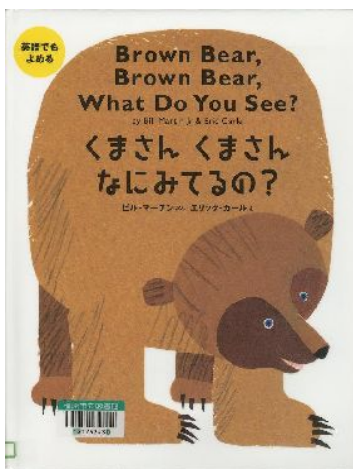
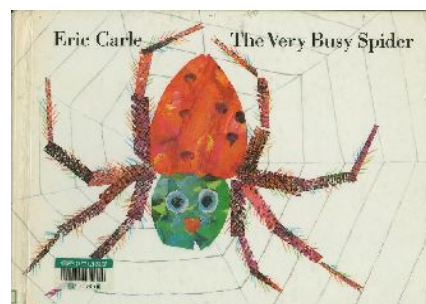


それぞれのページが切り抜きになっていて、ページを繰るごとに違う図柄が現れます。



「COLOR ZOO」の邦訳版「へんしん どうぶつえん」

鮮やかな色彩で人気の高いエリック＝カールさんの英語版絵本とその邦訳版



英語と日本語が併記された絵本もあります。

「くまさん くまさん なにみてるの？」
(原題 Brown Bear Brown Bear What Do You See?)

「はらぺこ あおむし」
(原題 THE VERY HUNGRY CATERPILLA)

檀原市立図書館が所蔵する他の英語版絵本(抜粋)

言葉づかいのやさしいものを選んでみました。

邦訳タイトル

原タイトル

著者

月ようびはなにたべる?
はらぺこあおむし
きこえるきこえる
あおくんときいろちゃん
いろいろ1ねん
くまさん
ちいさいおうち
いたずらきかんしゃちゅうちゅう
にじのはな さかせよう!

Today Is Monday
THE VERY HUNGRY
CATERPILLA
THE NOISY BOOK
little blue and little
yellow
A Busy Year
THE BEAR
THE LITTLE HOUSE
CHOO CHOO

エリック カール
同上
マーガレット・ワイズ・ブラウン
レオ・レオニ
同上
レイモンド・ブリックズ
バージニア・リー・バートン
同上
ロイス・エイラト

図書館員の本棚(5)

「人倫訓蒙図彙」

(東洋文庫・1990年)平凡社

* 元禄3年に刊行された本書は、上方の暮らしの様子を描写したものである。西鶴の挿絵も手がけた蒔絵師 源三郎の署名がある。

市内の中学校から毎年、職場体験の生徒さんがたくさん来られます。いつも来館者の皆さまには暖かく見守っていただいております。中学生ともなると、数多くの選択肢の中から、そろそろ自分の向き不向きなどを考えていかなければならない時期です。『13歳のハローワーク』村上龍／著(幻冬舎)なども参考になるでしょう。

さて、人が生活していく中で、さまざまな職業があるわけで、「駕籠に乗る人、担ぐ人、そのまた草鞋を作る人」という江戸時代のことわざがあります。これは身分の上下をいっているのではなく、様々な仕事をしている人がいて初めて世の中はまわっているという意味だと思います。元禄三年(1690年)に刊行された『人倫訓蒙図彙』には実にさまざまな職業の人が描かれています。駕籠を担ぐ「駕籠借」、草履を作る「草履や」はもちろんのこと、商売人から「ししまい」「人形遣」「さるまわし」といった芸人まで、挿絵をながめているだけでも、楽しさについて時間を忘れてしまいます。『井原西鶴や近松門左衛門の本を読むときには必携の書です』と学生時代の指導教授から紹介されて購入したのですが、自分が江戸時代にタイムスリップしたら、どのような職業選択が可能かと、思わず真剣に読んでしまう本です。ちなみに、絵本の朗読が好きな私には、絵双紙売が自分にはお似合いだと思うのです。(く)

No
Image

13歳のハローワーク
村上龍／著
幻冬舎

No
Image

江戸の見世物
川添 裕／著 岩波書店



絵双紙売 (挿絵)

お知らせ

1. 自宅で眠っていませんか？

書き込み、汚れ、破損等のないものについて、予約が多い下記の本の寄贈をお願いします。

* 手続きの都合上、直接ご来館の上ご寄贈ください。返却ポストへの投函はご遠慮願います。

書名	著者
流星の絆	東野 圭吾
ホームレス中学生	田村 裕
夢をかなえるゾウ	水野 敬也
おそろし	宮部 みゆき
阪急電車	有川 浩
陰日向に咲く	劇団ひとり
ダイイング・アイ	東野 圭吾
いっちゃん	畠中 恵
地の日天の海	内田 康夫
東京島	桐野 夏生
私の男	桜庭 一樹
恋空	美嘉
氷の華	天野 節子
食堂かたつむり	小川 糸
おひとりさまの老後	上野 千鶴子
愛しの座敷わらし	萩原 浩

2. 作品展示 「おりがみ」作品展

期間 12月2日より1月30日まで
場所 2F展示コーナー



予 告

——資料展示・所蔵図書展示 共催——

「吉野の作家 熊野の作家 前登志夫と中上健次」

吉野、熊野を作家活動の拠点とした両氏について、所蔵図書の紹介と併せ、真筆原稿と関連資料の展示をおこないます。活字媒体では伝わり難い、作家の風貌や息遣いを身近に感じていただければ幸いです。

期間 平成21年2月1日(日)～3月29日(日)
ただし2月14日～2月末は特別整理期間のため休館します。

場所 2F展示コーナー

3. 年末年始のお知らせ

① 年末年始の休館について (休館日)

12月27日、28日、29日、30日、31日
1月 1日、 2日、 3日、 4日、

5日

新年は1月6日(火)より開館します。

② 年末年始の特別貸出について

12月9日～12月26日まで、下記の通りおこないます。

冊数 図書、雑誌についてひとり10冊まで(通常5冊)
貸出期間 4週間(通常2週間)

* 視聴覚資料については、おひとり2点まで、4週間とします。

4. 資料展示

① 「あのひとの自伝」

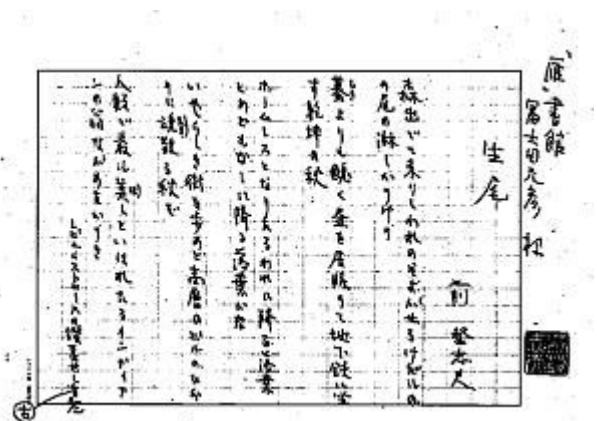
期間 12月2日より1月30日まで
場所 2F展示コーナー

② 「季節の絵本 冬」

こころが暖くなる選書を心がけました。
期間 12月2日より2月13日
場所 1F展示コーナー

③ 「ふたつの島のふたりの作家」

期間 12月9日より12月26日
場所 1F展示コーナー
* 本紙2、3ページをごらんください。



前登志夫氏執筆のオリジナル原稿 (展示予定)

檜原市立図書館

〒634-0075
檜原市小房町11-5

TEL:
0744-29-2121

FAX:
0744-21-1011

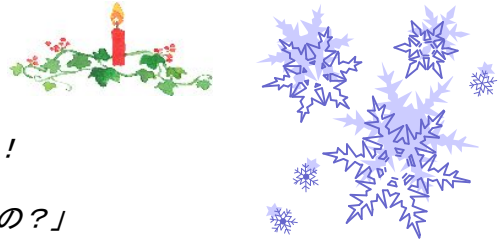
http:
[//www.ksh-lib.jp/](http://www.ksh-lib.jp/)

編集後記

究極の読書論

先日、所用があって金沢に出かけてきた。帰路の列車を待つ間、師走で賑わう近江町市場をのぞくと、店頭の間隙に杏(あんず)のドライフルーツがあった。▼この市は、文豪と呼ばれる作家たちを輩出した。泉鏡花、徳田秋声、そして「杏っ子」の著者である室生犀星である。杏の実をほおぼりながら、ゆかりの犀川の畔を歩いてみた。▼犀星は、旧藩士の実父が64歳のときに、使用人であった女性との間に生まれた。孫よりも幼い妾腹の子を実父は疎み、彼を寺院へと追いやる。養育費目当ての養父母とは、心が通い難かった。▼そんな孤独を慰めたのが、犀川の流れと寺院にあった本だった。メールもブログも学童クラブもない時代のことである。内面の飢餓感を埋めるには、本ぐらいしかなかっただろう。▼読書の目的は様々である。仕事の情報をつかむため、勉強や研究のため、あるいは、暮らしや趣味のヒントを探するため……。教養や自己啓発のためではなく、物語やエッセーを読むことが純粋に楽しいから、というのものもあるだろう。▼一冊の本を手取る時、悲しみの器ということを想像してみる。『ふるさと 遠くにありて思ふもの そして 悲しくたふもの——』(小景異情) 犀星もまた、憂愁を抱えて生きたひとだった。(館長)

もうすぐクリスマス



クリスマスが近づくと、大人は
子どもから質問攻めにあいます！

「サンタさんはどこに住んでいるの？」
「サンタさんは何歳？」
「サンタさんは魔法使い？」

赤い服、赤い帽子、白くて長いひげ、
トナカイの引くそり……

子どもたちは、“サンタクロース”の
ことが、知りたくてたまらないのです。



クリスマス・イヴの夜は、

みんなでパーティも楽しいけれど、
テレビを消して、電気も消して、

ろうそくの灯りの中で、
語って聞かせてあげてください。

子どもたちの心に残るクリスマスを。

「クリスマスのまえのばん」(偕成社)
ターシャ・チューダー絵 クレメント・ムーア詩 中村妙子訳
「クリスマスイヴのこと」(セーラー出版)
クレメント・ムーア作 アニタ・ローベル絵 松井るり子訳
「クリスマス・イヴ」(ほるぷ出版)
マーガレット・W・ブラウン文 ベニ・モントレソール絵
「バーナデッドのモミの木」(西村書店)
アンデルセン原作 バーナデッド絵 ささきたづこ訳
「スノーマン」(竹書房) レイモンド・ブリッグス作 きやまかすみ訳



としよかんのクリスマス クリスマスおはなし会 ご案内

日時 12月20日(土)

午後2時~3時

場所 かしはら万葉ホール 4階視聴覚室

対象 市内在住の3~12歳のお子様とその保護者 30組



12/5から、直接
ご来館での申し込み。
(先着順)

〈プログラム〉

大型絵本「まどから☆おくりもの」五味太郎/作・絵(偕成社)

絵本「となかいはなぜサンタのそりをひく？」

M・ブライス/文 A・モズミ/絵 松野正子/訳 (岩波書店)

おはなし「こびととくつや」

パネルシアター「クリスマスってなあに」

ディック・ブルーナ/作 ふなざきやすこ/訳

No
Image

表紙の写真

図書館フェスティバルの一環として、かしはら万葉ホールと共催して、直木賞作家山本一力先生をお迎えし、講演会「人生と読書」をおこないました。講演後のサイン会でのヒトコマ。